第72回（R5．12）

どうなる公共交通

初冬の病院の待合室、診察の終わったお婆さんが、タクシー会社に電話をかけている。「なにね！一時間もかかーかね！」「そげに待たんといけんかね」老婦人の声は心細さにだんだん弱々しくなってくる。

近年タクシーになかなか来てもらえない。原因は乗務員不足にある。コロナで利用者が激減。その間に多くの運転手さんが離職した。賃金が低いのも一因となって、慢性的な運転手不足に陥り、住民の要望に応えきれないという。

運転手不足はバス事業者も同じである。一人の運転手さんが欠員となると10便程度減便が必要となる。路線バスの統合縮小は既に始まっており、今後さらに進みそうである。

近年、無人運転の車が開発され、既に実験運行も行われている。無人タクシーなどが実現すれば、運転手不足の問題は一気に解消されるが、それまでの道のりはまだ遠い。一方で最近ライドシェアも注目されている。一言でいえば「白タク」の合法化だ。世界各地で急速に普及しており、横浜市が導入の検討を始めた。しかし安全性など多くの問題を抱えており、導入には時間がかかる。

無人運転のバスやタクシーそれにライドシェアは、私が冥土に旅立つまでに実現しそうにない。そうなると当分の間、公共交通の核はやはり路線バスということになる。松江の路線バスは、市バスと一畑の2社で運行しているが、運転手不足に加え、利用者減が追い打ちをかける。このままでは両社のバス路線はどんどん縮小し、交通弱者の増大が懸念される。今後の公共交通を考えれば、バス事業者の統合など、大胆かつ抜本的な改革が必要と思われるのだが。